

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	健常例における骨盤解剖学的パラメーターと腰椎アライメントとの関係
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
【対象】 2015年4月1日から2022年3月31日の間に新潟大学医歯学総合病院および新潟県立新発田病院の骨粗鬆症外来を受診され、骨粗鬆症がなかった方（約300例）の中から骨盤解剖学的傾斜角（Pelvic incidence）が60°以上であった方 【研究期間】 新潟大学倫理審査委員会承認後から2029年3月31日まで	
③概要	
以前撮影最した X 線画像を用いて、骨盤、腰椎機能的パラメーターおよび骨盤解剖学的パラメーターから2群に分け、それぞれの関連や特徴を調査します。	
④申請番号	2026-0090
⑤研究の目的・意義	脊椎・骨盤アライメントを評価するパラメーターとして pelvic incidence (PI) や仙骨傾斜角 (SS), pelvic tilt (PT) が広く知られています。その中でも PI は腰椎アライメントと関連が強いことが知られています。以前私たち新たな解剖学的パラメーターとして、解剖学的基準面に対する SS (a-SS) および PT (a-PT) を提唱し、解剖学的な PI と a-SS が高い相関関係にあること、a-PT は骨盤解剖学的基準面の傾きと関連することを報告してきました ときに PI が大きい (60°以上) 症例がいるが、a-SS と a-PT の関係の違いによって腰椎アライメントに与える影響も異なるのではないかと考えられました。本研究の目的は、PI が 60°以上であった症例に対して、a-SS, a-PT と腰椎後弯角の違いを調査することです。本研究結果から、人工股関節全置換術を行う際のインプラント設置角の指標にしたり、また、実際の脊椎手術において目標とすべき脊椎矢状面アライメントの設定も可能になることが期待され、その意義は大きいと考えられます。
⑥研究期間	新潟大学倫理審査委員会承認後から2029年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される	X 線画像は通常の診断に使用したものであり、本研究のために、追加する検査はなく、対象者に不利益が生じることはないと考え

場合はその方法を含む。)	えられます。データは研究を担当する研究者および分担研究者以外の者に漏洩しないように、作業方法、作業場所、データ保管方法等を厳重に管理致します。個人情報に関しては特定の個人を識別することができない情報へ匿名化を行います。研究成果の公表に際しては、個人が特定されることのないように配慮致します。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢（満30～90歳）、性別、pelvic incidence, pelvic tilt, 仙骨傾斜角、前骨盤平面の傾き有無です。
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科学分野
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 imainorio2001@med.niigata-u.ac.jp